



「生きることは、手をのばすこと」

今月は、ひとつの短歌をご紹介します。

「生きることは、手をのばすこと、幼子の指がプーさんの鼻をつかめたり」

この愛らしい子どもの仕草を表現した短歌は、歌人 俵万智さんの歌集『プーさんの鼻』からのものです。俵さんが子育て中に見た、ご自身の赤ちゃんの何気ない日常の情景から生まれました。赤ちゃんが手を伸ばし、目の前のプーさんのぬいぐるみを一生懸命にさわろうとしている、その手を伸ばし、やっとのことで鼻をつかめた一瞬、赤ちゃんの表情に喜びが……。そんな微笑ましい姿に、「生きる」ことの本質を直感的に感じた俵さんの感性に、私は心から感動を覚えます。

9月の園だよりでは、子どもにとって「集める」という何気ない行動に、実は大切な意味があるというお話をしましたが、この赤ちゃんが興味を持ったものに自然と「手をのばす」という行動も、発達心理学では「リーチング」といってきわめて重要な意味があります。手をのばして何かを触るとき、硬い、柔らかい、温かい、冷たいなどの様々な情報が感覚とともに脳に入ってきます。そして、それを掴んで自分のほうに引き寄せて、小さいものだと必ず口に入れ、しゃぶったりします。こうした一連の行為がつながって、赤ちゃんは手指、唇、舌などによる「身体感覚」を発達させていくんですね。

こうした「身体感覚」は、人間が様々なことを学習していくプロセスで、実はものすごく大切なことです。この身体感覚は、「実体験」と言い換えてもよいでしょう。人が様々な学習をし、成長していくその根っこには、実はこの身体感覚＝「実体験」が必要なのです。

世の中には、言葉をよく知っている、記号や色の名前を知っている、何かの名前をよく覚えている事が「賢い」と思い込んで、小さい時からタブレットや画面でそうしたものを見せて、バーチャル体験で勉強させれば良いと勘違いしているケースが山ほどありますが、実は「実体験」を伴わない、そうした表面的な学習では本当の意味で子どもは賢くにもなりませんし、体の芯で感じていないので、何より「心」が喜びません。

木の実の子ども達の姿を振り返ってみましょう。なんで子どもは草むらで捕まえてきたアリやバッタを飽きずに眺めたり、いじったりするのか。どうして雨降りの日に、窓ガラスについた滴をじっと眺めたり、雨音に耳をそばだてたりするのか。毎年秋深まるこの時期、どうして集めてきた落ち葉をすり鉢ですり潰し、粉にしたり、水に溶かしてみたりして何日も遊べるか……。

子ども達は、タブレットやバーチャルな体験では得られない、身体感覚を刺激する「実体験」が、楽しくて楽しくて仕方がないのです。なぜ楽しいか。それはバーチャル体験では得られない、膨大な生の情報が、意識の下まで入り込んで、脳神経と心を活性化させるからです。これが子供をワクワクさせ、生き生きとさせる最大要因なのだと思います。

バーチャル体験とは所詮、人が作った抽象的のもので、リアルな生の情報には全くなわないのです。この事を理解していないと、バーチャル万能の世の中で、間違った教育が行われる危険があると、私は常々考えています。これからの時代には「実体験」こそ教育の基本、来る年長組のデイキャンプでも、「火起こし」から体験していきます。どうぞよろしく願いいたします。



行事予定



7日(月)～18日(金) 各クラス2学期保育参観 別紙案内をご確認ください。

9日(水) 年長組 秋のミニ遠足

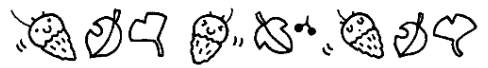
詳細は別紙にてお知らせ致します。

19日(土) 年長組 デイキャンプ

下旬頃～12月中旬 火災避難訓練



お知らせ



☆私服のジャンパー着用について

11月以降、次第に寒くなってきますが、登園・降園時の気温に合わせて、バス停や幼稚園門(各自送迎時)まで私服のジャンパーの着用が可能となっております。ただし、バス内、保育室内の暖房も完備されていることから、園では着用しませんので、バス停もしくは門で保護者の方がお持ち帰りください。

☆年間通して水筒を持参しておりますが、最近暑さもやわらぎ、水筒のお茶を飲む量も減ってきました。秋から冬にかけて水筒を持参する際には、お茶の量を調整して持たせてあげてください。

☆音楽発表会について

今年度の音楽発表会(12/10・土)の開催形態について、取り急ぎお知らせ致します。ただし、新型コロナウイルス感染状況によって、会館の観客動員数に制限が設けられた場合は、音楽発表会の開催形態が変更となる場合があることを予めご了承ください。

12月10日(土)

- ・午前の部→Aグループ 【集合】 8:50 【開催時間】 9:30～12:00 (予定)
- ・午後の部→Bグループ 【集合】 13:00 【開催時間】 13:30～16:00 (予定)

※参加者は運動会同様、1家族につき保護者2名まで と 付き添いの子どもは小学生までの兄弟姉妹のみとなります。

※付き添いの子どもは小学生までの兄弟姉妹のみとしておりますが、自宅待機が困難なご兄弟の場合を想定しております。座席の関係上、保護者の膝上または指定席以外の空席をご利用いただくこととなりますので、各ご家庭で検討、対応いただきますよう、ご協力をお願い致します。